

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390500033		
法人名	医療法人 すえひろ会		
事業所名	グループホーム こうらく		
所在地	熊本県水俣市浜町1丁目12番9号		
自己評価作成日	R1年10月8日	評価結果市町村受理日	令和元年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和元年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H23年2月1日開設。近隣や地域の方の協力もあり、徐々に馴染んできている。庭には近隣の方が持ち込まれた季節の花が咲き、入居者様の目の保養や心の癒しになっている。近くにバスの停留所やタクシー会社もあり交通の便利が良く、受診時に利用するなど社会資源の活用とつながりを大切にしている。「私は 私なりに生きてゆきたい」「私たちは地域と共に寄り添い 心ゆたかな暮らしをささえます」を理念に、地域の方や保育園児との交流また敷地の周囲に咲く花や緑の植物、プランターで育てている野菜のもつ力で心豊かな暮らしになるよう努力している。毎年入居者様のまだ出来る力で作成した作品を文化祭として施設で展示、ご家族様をはじめ近隣の方も見に来られ喜んでおられる。入居者様やご家族様との信頼関係を築き、入居者様の思いに寄り添い笑顔あふれる暮らしを支えられるように職員一同取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設からの経年により入居者の入れ替わりが進む中で、ホームの文化祭開催に向けたパッチワーク作り等が自信回復として生かされ、花を生けたり、新聞に見入る方等自由な生活に出来る事・できそうなことを視点に置いたケアであることが表れている。物心ともに豊かな環境の整備であることも職員体制に変化がない事やホーム周辺の木々や花等にあり、家族との散歩やバラ園への外出等入居者・家族・職員や近隣住民が一体となって醸成された温かみのあるホームが形成されている。法人一体となって取り組む委員会活動や研修などがケア向上に生かされ、家族への信頼感とともに職員の自信へとしても繋がっている。入居者同士が労い合う姿や「幸せすぎて」の言葉、「明るく 楽しく 美しく」をモットーとする入居者の姿に、「私は、私なりに生きてゆきたい」等とする理念を見ることが出来るホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設した当時の理念の元実践に繋がっている。支援に迷った時には理念を振り返り修正し職員と共有している。	「私は、わたしなりに生きてゆきたい」とする入居者視点と、「私たちは地域とともに寄り添い 心豊かな暮らしを支えます」をケア規範として、異動による職員にはホームの成り立ち及び理念の意義等を説明している。また、本人の思いがどこにあるか探りながら、職員の気付きや感じ取った事案等の情報を共有し検討しながら、理念である“わたしなりに”の実践に取り組んでいる。入居者・家族・職員、近隣住民が一体となって醸成させたアットホームなホームが形成されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の挨拶はもとより、回覧板の受け渡し自治会の会議には積極的に参加している。特別な行事がある時には声掛けし見に来て頂いている。中学校の高齢者宅訪問の行事を受け入れている。	自治会へ加入し総会等へ参加、保育園との相互交流や、認知症サポーター研修を受けた中学生の訪問受け入れ等のほか、長年にわたりホームの庭を手入れして下さる隣人、野菜の差し入れ等地域の中のホームとして確立している。ホームも行事(敬老会等)には声掛けし、中学にキャラバンメイトとして出向く等認知症ケア啓発に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の機会に事例を提示し対応方法でうまく行ったことや難しいことなど発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通し、サービスの実際を情報提供している。市や包括だけでなく自治会長、民生委員より貴重な意見を頂いている。	定例化した運営推進会議は行政・地域包括支援センター・自治会長・民生委員・地域住民の他、輪番で家族が参加されている。登録利用者状況、運営状況、事故やインシデント、委員会活動の報告とともに参加委員からの情報提供や意見交換を行っている。道路に面するホームとしての危険性へのアドバイス等により意見交換等有意義な会議であることが確認された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や地域密着型サービス会議で情報交換を行っている。事故報告書も随時報告しアドバイスをもらい今後の支援に活かしている。	運営推進会議等を通じた情報交換や、傾聴ボランティア(週1回)の受入、介護相談員の訪問は入居者の思いの把握やホームと行政との橋渡し等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会で年2回の研修に全員参加し出来ない時には資料を読んで報告書を提出している。拘束か分からない時には皆で話し合って市などに意見を貰っている。	身体拘束廃止に向けた指針を掲げたホームでは、身体拘束廃止委員会での研修や事例検討、外部研修に参加している。1週間の勤務で言葉・行動・表情等自己チェックを行う等意識が高く、外出傾向等個々の状況の把握や所在確認の徹底、時には一緒に外に出る等束縛の無い自由な生活を支援している。家族の同意の下、ベッドからの滑落防止にセンサーを設置しているが、音には敏感に反応し昼夜の音量等常に注意し、車いすも移動手段として捉えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会で虐待に関する研修を学び又、市主催の虐待に関する研修にも参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	法人で行われる権利擁護の研修には全員参加している。参加できなかった場合には資料を読んで報告書を提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時重要事項説明書に沿って丁寧に説明している。直ぐには質問が分からない場合も考えられる為時間を置いて不安や疑問が無いかなを尋ねている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には何か困った事や意見等ないか聞いている。運営推進会議は月別に家族に参加してもらいしや包括、地域住民に直接外部へ表せるようにしている。	玄関に意見箱を設置している他、家族会による意見交換を行うとともに、家族の面会時に気づかれたことは無いか等を聞き取りしている。運営推進会議も問題提起の場として捉え輪番での参加を依頼している。個別に作成する「こうらくたより」は、家族への情報発信源として生かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回行い意見や要望を聞いている。又都度何か困った事はないか聞いている。	毎月の運営会議のなかでの意見交換や各委員会からの報告をもとにした話し合いを業務に反映させている。また、管理者は職員とのコミュニケーションにより悩みや心配事の相談にのり、職員も管理者に個別に申し出ることもある。また、業務分担した中で、職員同士が協力し合っている。感染・教育・身体拘束・身体拘束・医療安全・褥瘡等委員会活動も活発で、積極的に話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	学ぶ環境は整っている。処遇改善加算もとれており職員のモチベーションが上がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のケアの基礎的な研修や外部研修に参加する機会があり働きながらトレーニング出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	水俣市の地域密着型会議の研修や水俣・芦北ブロック研修や交流会に参加している。新規事業所の訪問など行いネットワーク構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションをとり信頼関係を築きながらご本人の訴えに耳を傾けている。初期は特に不安が大きいためゆっくりした態度で接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階が一番家族が不安に思っている事がある様なので力を入れて信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望に応じ出来る範囲での支援に努めている。自費で訓練に行く方もおられる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人が出来ることや役割と感じている事を日々の暮らしの中で実施できるように努めている。また、同じ家に住む者同士支え合って生活できるよう職員も注意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅に連れて帰ったり、受診に付き添われるなどされている。面会もよく来られ一緒に散歩にも行かれる。家族が来られた時はコミュニケーションに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に気軽に来れるように笑顔で対応している。行きたい場所への支援は少ないので努力していきたい。	週1回訪問される傾聴ボランティアとの関係や入居者同士の和やかな生活等に馴染みの関係性であることが表れている。趣味の継続、七夕短冊作り、近隣から寄せられる“柳餅”や家族との自宅への外出や散歩等これまでの関係性や慣わし等を支援している。また、在宅での生活線として嗜好品を家族の持ち届けにより継続されている。	職員の方から行きたい場所は無いが等聞き取りし、何も無いとの返答にも外にでましよう等外に出ることを支援している。今後も行きたい場所等のリサーチを継続いただき、馴染みの場所との関係性が途切れないよう支援いただきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しい雰囲気毎日を過ごせるような関係作りに努めている。時には職員が間に入ったりしながら利用者同士が関係修復する力を持てるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても出来る限り差支えない所で経過を見守っている。入院になり終了になっても見守りや亡くなった場合でもお世話になった縁があり、お悔やみにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどうしたいのか聞きながら意向に沿って支援している。	う入居者が考え、答えを待つなど自己決定の場を作り、自分から思いを発せない方には職員が声を掛ける等本人本位の生活になるよう支援している。また、家族の訪問時の入居者の声等も把握し、プラン作成に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の趣味や好きな事を事前に把握し、出来る限り近い状態で継続できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の身体や気持ちの状態に合わせて日々を過ごして頂いている。今どんな心身の状態なのか把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が家族の面会時にしか言われたい要望や真の気持ちがある為、家族に聞き介護計画に反映している。職員会議で意見を貰うなど話し合っている。	毎月の会議の中での話し合いや退院時、介護認定更新時等本人・家族と介護計画担当者により話し合い、新たなプランを作成している。ケアマネジャーは、担当職員の観察等を聞きながらモニタリングを行い、3ヶ月毎の評価により達成度を見極め、今後の方針に反映させている。出来ることは自分で行うことを目標として生け花等の楽しみ事の継続等本人の思いや家族の意向をプラン化し、具体的かつ詳細な個別プランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って介護経過を記録している。気づきは職員間で話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まちかど情報塾に参加していたが家族の要望で通いの運動に切り替えた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のタクシー会社の方とは顔馴染みになってきた。保育園児の訪問やお遊戯会のお誘いに全員で参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医との関係を継続している。必要時情報提供し、適切な医療が行えるようにしている。医療間で診療情報提供を行い継続した医療の情報が出来るようにしている。	家族の要望で、母体の医療機関へ変更されるケースもあるが、そのまま継続で良い事を説明している。歯科受診の場合は、近隣のため必要に応じて徒歩や車いすで出向いている。専門医の受診が必要な状態には、主治医からの紹介状により職員が対応している。職員はバイタルチェックや食欲、排泄など日ごろの関わりの中で健康管理を行い、気になる場合は早めの対応や家族へ報告し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は細かな情報を報告し、早期受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを用いて情報提供を行っている。入退院に関しても家族と一緒に説明を聞き、気をつける事などアドバイスももらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合に出来る事と出来ない事を説明している。入居経過の中で状態の変化する過程でも家族との情報交換や気持ちを聞いている。	入居時に重度化した場合のホームの対応について説明している。口腔摂取ができるところまで、痰の量が増えたり、栄養が摂れない場合は、主治医や家族と話し合い、今後については家族の気持ちに配慮して対応している。特養の入所まで、協力医療機関への入院が殆どである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の研修を行っている。事故発生時の連絡体制は整っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。近隣の方も訓練に参加されている。	10月に消防署立ち合いで水害を想定し、近隣のビル3階まで避難する訓練を行い、更に年度内に火災訓練を予定している。居室の戸には、独歩や杖など誘導ができるよう入居者の状況が掲示されている。入居者からも「水が出てきたら、どこに逃げると？」等の質問もあがり、有事の際、訓練に協力いただいたビルの所有者に、避難場所を相談している。訓練の様子を写した写真により、家族や運営推進会議の中で報告している。備蓄はリストを作成し、5年・10年の保管できるものを主に備えている。	自然災害においては、立地的に水害対策への強化を課題として対策されている。今後もあらゆる場面を想定して有事に備えていかれることが望まれる。開設時より協力的な近隣住民等もおられ、今後とも協力関係を継続していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけを行っている。トイレなどは小さな声で耳元で声掛けするようにしている。	言葉使いを含め、接遇に関するチェックを行い、入居者に失礼な対応をとっていないかなど振り返っている。呼称は苗字にさん付けで対応し、職員の守秘義務については、法人による指導とともにホーム内で周知している。身だしなみやおしゃれにも本人らしさが出るよう支援し、髪が気になると自らカットの要望をされる方もおられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望などに対しては、答えを待つようにし、自分から訴える事が少ない方には声かけし、希望などを聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流されないう、言葉かけを行い自ら考えることができるように、答えを待つようにし、自己決定を働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来ない方には介助して身だしなみを手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげ取り等自主的に手伝って下さる。盛り付けなど出来る方にも手伝ってもらっている。	法人の栄養士が作成したものを参考にした献立をもとに、季節感や入居者に喜んでもらえる食事を提供している。誕生日では、手作りケーキや入居者の希望(ちらし寿司や赤飯など)による料理とするなど、入居者のリクエストされた料理の提供や正月のおせち等に力を入れ、ソーメン流しでは利き手で食べられるよう竹の位置を工夫している。入居者もテーブル拭きや食材の下ごしらえなどできることで食へかかわり、入居者の生けた花に会話も弾む食事風景であった	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量など記録に残している。好みの飲み物や飲みやすい物等提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の能力に沿って、口腔ケアの声掛けや支援、口腔内のチェックを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、力に応じた支援を行っている。布パンツにパット対応などオムツを使わないようにしている。新入居者に対しては、トイレに同行しパット確認をさせてもらっている。漏れや汚染時はパット交換や陰部洗浄等都度対応している。	職員は早めに排せつのサインに気付き、失敗のないよう誘導を行う他、自立の方が継続できるようにしている。リハビリパンツや布パンツに尿取りの併用、昼夜のパットの使い分けなど適切な支援を個々に応じて検討している。排泄用品の使用については、家族の意見や要望も聞きながら決定している。夜間のみ使用するポータブルトイレは、洗浄やエバ水での拭きあげにより清潔に管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く摂取する献立と水分補給に気を使い、水分摂取量を個々に記録して脱水予防にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は予め決めているが、断られる時もあり、声掛けの工夫や翌日の方と交代して入れている。浴室内は滑り止めマットやシャワーチェアを使用するなどして安全面に配慮している。	明かるい浴室で、ゆっくり気分爽快になってもらえるよう入浴を支援し、入居者の状況に応じて週2～3回支援している。拒否が長く続かれる方には、毎日の声掛けなどの工夫により、間隔が空かないよう支援し、居室のカレンダーに入浴日を掲示することが意識付けとなり、拒否も少なくなったケースもある。入居者の個々の希望により、足浴を併用しながらシャワー浴が好みという状況もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間居室でテレビを観ながら眠られる入居者もおられ、ご本人が落ち着いて休まれる配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の薬の目的や副作用、用法、用量について理解しており、予約時の落下を防ぐため、小さいカップを使用している。いつもと違う変化があった時には内服との関係を調べて医師への報告に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の手伝いや生け花、塗り絵等個々の好きな趣味を知り支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力により、外出されたり自宅に帰られたり、一部の入居者は出来ている。気候が良い時期には散歩の支援を行っている。	庭先の散歩や昔ながらの商店を歩いたり、職員の愛犬と一緒にデッキで触れ合う時間を持つなど、努めて外気に触れる機会を持っている。桜をはじめ花見は季節に応じて取り組んでおり、バラ見学時家族へも参加を呼びかけ、入居者と一緒の外出を支援している。自宅への帰省や外食、面会時にホーム周辺を散歩されるなど家族の協力が有り、入居者は嬉しいひと時を過ごされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ希望のある人には持たせ使って頂いている。管理できなくても家族の希望、持つ事で安心される人には紛失のリスクを伝え所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される時には電話をかけている。手紙のやり取りはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は音楽の音が大きくなりすぎないようにしている。食堂や玄関には花を飾り、廊下との空間には季節を感じられる物を手作りし、殺風景にならない様季節の壁作りをしている。	リビング食堂は裏庭の木々や草花が眺められ、木造を活かした開放的な空間となっている。敷地内に咲いた花や近隣住民からの頂き物・職員の持ち寄った草花、ブドウや柿・栗などの作品を暖簾にするなど季節に囲まれた環境の中で入居者は過ごされている。職員の声にも十分配慮し、人感センサーの音量も時間帯で検討している。また、歩行が出来る方は可能な限り歩いて、(バギーも使用しながら)もらえるよう支援しており、介助時に使用した椅子は、速やかに移動するなど会議で周知を図っている。	家族からの干し柿用の渋柿(はちや柿)の持ち届けは、女性入居者と職員との賑やかな会話に繋がっている。入居者の楽しみを引き出す職員の声かけも、居心地の良さに繋がっており、今後も入居者と職員との和やかな生活環境に生かされるものと大いに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間でのソファの配置を工夫している。自然と気の合う入居者が集まる時もある。庭を見る為椅子を配置したり、居場所のバランスに配慮している。食堂の席替えも行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居時に家族に相談し、本人の居心地のいいように家族が配置されている。また、本人の好みのものを配置されたり、気づいた時に使いやすいように配置されている。	入居の際居室の環境については、なるべく家と同じ雰囲気になるよう、慣れ親しんだもの等の持ち込みを依頼している。また、入居後も家族が本人らしく過ごせるよう、季節に応じた寝具や使い慣れた化粧品等が持ち込まれている。職員は居室の掃除や換気、個々に応じた作品の掲示等、必要なものがあればその都度家族に連絡を行っている。	歩行状態安全面を重視した部屋や、観葉植物の鉢・園芸用品、以前自宅で使用していた健康器具、栄養ドリンクなど本人の趣味やこだわりが詰まった部屋などホームの日常や家族の思いが伝わってくる。変わらぬ支援を継続いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や居室の場所が解るように花紙や紙に書いて目印をしている。廊下、居間、食堂は自由に安全に行動できるよう環境整備を行っている。		